

## ご信心の学び方

私たちは学ぶことで成長します。有難いことに、今は学ぶ環境が充実し、先人が時間をかけて得た知恵も、手早く労せず、手にすることが可能です。この学び方に、大きく二つの形があると思います。

一つは知識を得るための学習です。普通はそのために専門の教室に通って教わりますが、書籍やインターネットで独学も出来ます。ですから、あふれる情報を選択する力は、学ぶ鍵にもなるようです。

もう一つは「師に仕える」学び方で、知識を求めるのと似ていますが、少し違います。現代では師弟関係などと言うと古臭い印象で、お茶やお花といったお稽古事や芸能の世界、あるいは学問も専門的になると、大学や研究機関等に若干その形態が残ります。しかし、知識や技能だけでなく、師の人格や生き方まで吸収できるよう「無理を聞くのは当たり前」「走り使いで雑用からこなせ」と昔流でやると、「時代遅れのパワハラ」と批判が殺到するため、内容は随分変わり、師が弟子に気遣いする事例も耳にします。確かにパワハラはいけません。師弟相互の尊重も大事です。ただ、雑用から入るのは理由があって、我を去らないと先達の築いた文化や思想をそのまま継承できず、長い時間を経て受け継がれた伝統を自己流に歪める危険があるのです。つまり、師に仕えるのは自身の知識を増やすだけでなく、先人の築いた知恵をそのまま継いで、以て自己を高め、社会に貢献しようとする学び方です。当然、ご信心もこちらになります。

そこで御指南には「師は針の如し。弟子は糸の如し」「師が白と言えれば黒いものも白と思え」等の師弟道の心得が引かれます。これを「師の言いなりは理不尽」と受け取ればパワハラですが、言わんとするのは「自分を捨てよ」ということで、そこが出来ねば日蓮大士のご信心を学びながら自分流に色付けをし、亜流を後世に残します。

ですから、自身の都合を置いてご奉公に勤める中でお祖師さまの純粋なご信心を相続し、ご参詣や口唱の妙味を掴んで、常に功德を積む信者へと成長せねばなりません。そして、その学んだまを、良き手本となって今度は伝えていくのです。それは時に現代的な価値観と合わず、合理性を欠く場合もありますが、ご信心は効率よりも、確実な罪障消滅で幸福を手にすることが大切で、理屈や知識に止まると肝心なときに愚痴やご奉公のムラが出て、功德行が出来ません。

去る10月20日は高祖会でしたが、恒例の晴天祈願参詣に参る人は少なく、通常の朝参詣とほぼ変わりませんでした。無事奉修をご祈願する意味を知識として知る人は多くても、「お祖師さまへの報恩のために万全のご奉公を祈る」という思いを先輩方から受け継がず、組内や家族にも伝えられなければ、ご信心の学びになっていません。

御会式には組内や教化子を将引し、それら家族が皆楽しみにして、着飾って参ったのがお祖師さまの教えを継ぐ諸先輩のご信心でした。それがいつしか所用優先の人が目立ってきたのも、ご信心の学び方を誤った証かも知れません。知識を得て自己完結したのではご信心になりません。お祖師さまの御心を脈々と相続する学びが大事です。

(「松風寺月報」令和元年11月号)